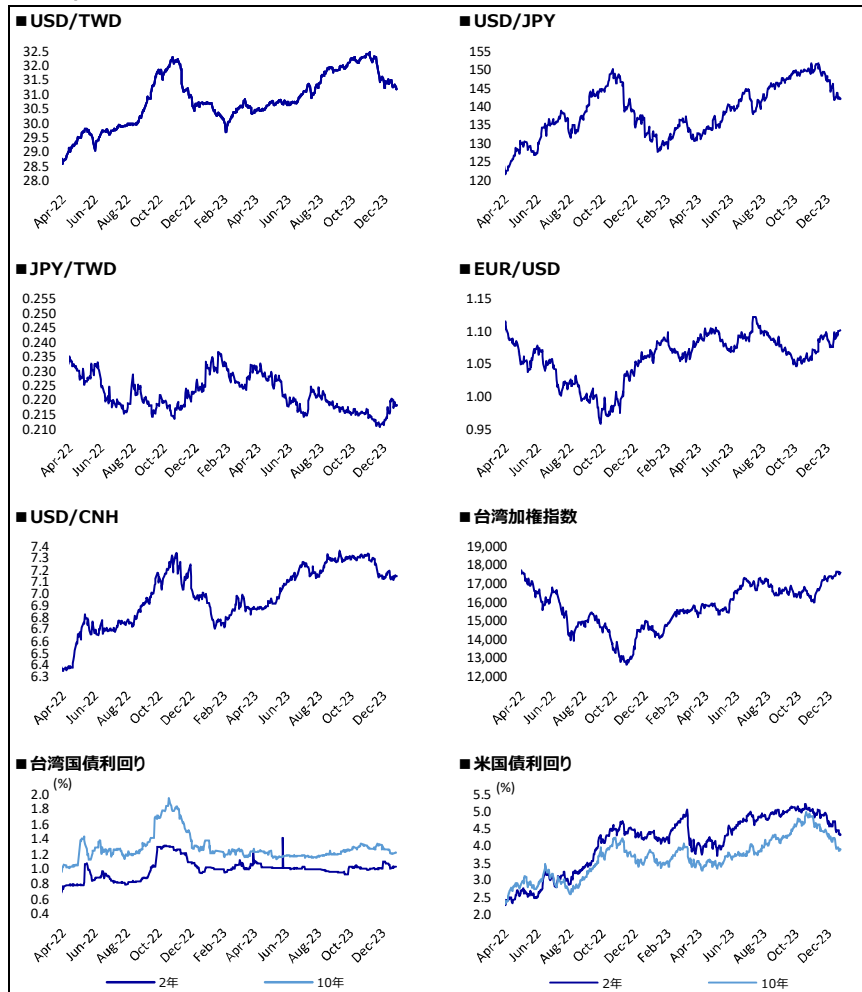


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。週初12/18は31.310でオープン後、材料に乏しい中、31.30を挟み揉み合いの推移。12/19は、前日海外時間に、米国地区連銀総裁のグールズビーから来年以降の利下げ織り込みに否定的な発言が聞かれていたことを受けて米金利が上昇する中、ドル買いが優勢となり一時31.368まで上昇した。12/20は、米金利が低下に転じる中、外国人投資家による台湾株買いが見られたことで台湾ドル買いが優勢となり31.20台後半まで下落。12/21は、米金利の低下が継続していた他、輸出業者による外貨売りが見られたことでドル売りが優勢となり、31.20台後半で上値重く推移。12/22は、前日海外時間に米第三四半期GDP確報値が速報値を下回る結果となっていたことを受けて、米金利が低下する中、ドル売りが優勢となり一時31.170まで下落した。引けにかけてはドルを買い支える動きが見られ下げ幅を縮小し、最終的には前週比0.2%ドル安台湾ドル高の31.203で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は289.4億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初12/18は142.10でオープン後、米国における過度な利下げ織り込みをけん制する発言が聞かれたことで、米金利が上昇する中、ドル買いが優勢な展開となり143円近辺まで上昇。12/19は日銀金融政策決定会合において金融緩和政策維持が発表されると、マイナス金利撤廃への期待感が剥落し、円売りが優勢となり一時144.95まで上昇した。12/20は英11月CPIが市場予想を下回り前月比マイナスの結果となると、海外金利の低下が加速し、ドル売りが優勢な展開となり143円台半ばまで下落。12/21は、米第三四半期GDP確報値が速報値を下回った他、米国地区連銀総裁のハーカーより「利下げに前向きだ」との発言が聞かれたことを受けて、米金利の低下が加速すると、ドル売りが進み142円台前半まで下落。12/22は日11月CPIが市場予想通り堅調な結果となったことを受けて円金利が上昇する中、円買いが進み一時141.88まで下落した。その後、米11月耐久財受注が市場予想を大幅に上回る結果となると、米長期金利が上昇に転じ、ドル買いが優勢な展開となり142円台半ばまで上昇。最終的には前週比0.2%ドル高円安の142.46で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：30.900-31.200
今週は上値の重い推移を見込む。今週は月末週であり、輸出業者によるドル売りが入りやすいであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：139.00-143.00
今週は上値の重い推移を見込む。米国利上げサイクル終了が意識され米金利に低下圧力がかかる中、ドルは売られやすいであろう。

今週の予定

12/25 (MON)	台湾11月鉱工業生産、米国休場
12/26 (TUE)	日11月サービスPPI
12/27 (WED)	
12/28 (THU)	日11月小売売上高
12/29 (FRI)	米12月シカゴPMI景況感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。